

令和五年度卒業式 式 辞

桜もほころび始めた今日の良き日に、このように厳かに令和五年度滋賀大学卒業証書・学位記及び大学院学位記並びに専攻科修了証書授与式を挙行できますことは、滋賀大学にとって、この上ない喜びであります。経済学部四百三十名、データサイエンス学部九十七名の卒業生の皆さん、および経済学研究科博士前期課程二十五名、博士後期課程二名、並びにデータサイエンス研究科博士前期課程四十六名、博士後期課程二名の修了生の皆さん、本日は誠にありがとうございます。またそれぞれの学生を支えてこられた保護者やご家族、ご友人、関係の方々に対しまして、その力強いご支援とご助力に敬意を表しますと共に、厚く御礼申し上げます。

皆さんの学生生活を振り返ると二つの大きな出来事があったと思います。一つはコロナ禍の影響です。もう一つは世界の不安定化です。

学部を卒業する皆さんは、四年前、コロナ禍が始まる中でこの滋賀大学に入学しました。皆さんが大学受験に臨んでいた二〇二〇年一月に、新型コロナウイルス感染症が突如として広がりはじめ、四月の入学式も行うことができませんでした。そのことを思い起こしますと、本日このように卒業式を挙行することができ、皆さんの人生の一つの区切りとなる機会をお祝いできることは、生涯の思い出になることと思います。二〇二〇年の春はキャンパスへの学生の立ち入りも制限されました。その秋には、いったん小康状態となりましたが、二〇二一年の春には変異株であるデルタ株が流行しました。その後ワクチン接種が進み感染者が減りましたが、二〇二二年の冬に次の変異株であるオミクロン株が出現して再度感染が拡大しました。ただしオミクロン株の重症化率は低く、感染対策を講じながらも入構制限などの強い制限措置はとられませんでした。そして昨年四月からは全ての制限が解除され、この一年間、皆さんは通常の大学生生活を送れたのではないかと思います。

このように、コロナ禍のため、友達同士の交流の場や、クラブ活動なども制限せざるを得ず、皆さんが本来の大学生生活あるいは大学院生活が送れなかったこと、そして大学側もその持っている全ての可能性を皆さんに提供できなかったことは、大変に残念なことです。

しかし残念なことばかりではありません。禍を転じて福となすという言葉がありますが、皆さんはコロナ禍という困難を乗り越えて大きく成長してきました。この経験を、他の世代にはない皆さんの強みにしていただきたいと思います。現在、社会全体でデジタルトランスフォーメーションの重要性が強調されていますが、コロナ禍によってデジタルトランスフォーメーションが一気に加速しました。大学ではオンライン授業が定着し、企業等ではオンライン会議が定着しています。皆さんがこれから進んでいこうとしている社会では、コロナ禍を乗り越えて新しい地平を切り開くことが求められていると思います。

皆さんの大学生活の中で、もう一つの大きな出来事は、世界の不安定化です。二年前に始まったロシアによるウクライナ侵攻は長期化し、まだ終わりが見えてきません。また昨年十月七日にはイスラエルとハマスの間の戦争が始まりました。この戦争も先行きが見通せません。どちらの戦争でも、町が破壊され、犠牲者が増え続けている状況です。戦争の悲惨な被害は毎日のように報道されており、一日も早く平和が回復されることを祈っています。戦争が長引き犠牲者が増えるごとに、憎しみの連鎖が続いていきます。第二次世界大戦後、さまざまな紛争があったものの、世界が発展し、だんだんと平和になっていくものと思っていたものが、これらの戦争の勃発によって平和への希望が打ち砕かれたように感じます。ウクライナとロシアの戦争がどのような形で終わっても、両国の人々は何世代にも渡って、仲良く暮らす気持ちには、なれないのではないのでしょうか。イスラエルとパレスチナにおい

ては、お互いの存在さえ認めないような激しい対立が長く続いています。世界の大国であるアメリカ、中国も不安定化の要因を抱えています。

このように世界は不安定になっていますが、幸い平和な日本に住む私達は、この平和を積極的に守っていくことが重要です。いま日本には外国から多くの旅行者が来ていますが、その一つの理由は、日本が平和で安全だからだと思います。戦争を終わらせるには、人種や歴史が異なっても相手の存在を認め、暴力に訴えず話し合いで解決していくことが重要です。これは一言でいえば「多様性を尊重する」ということになると思います。この多様性の尊重は、私達の身近な人間関係でも大事なことです。私達は自分自身の個性を伸ばしていくとともに、友人や他人の考えや個性を尊重する。このようにお互いを尊重しあう中で、一人一人が成長していくことができます。

一方で、他人の個性を尊重し多様性を認めることは、他人と競わないことを意味しません。私達は他人と競い、切磋琢磨することによって成長していきます。多様性があるからこそ競争があります。スポーツの試合でも勝ち負けがあります。同時に、スポーツにはルールがあり、反則は許されません。競争が破壊にならないためには、ルールを守ることが前提です。残念ながら世界が不安定化する中で、日本は日本だけで存在することはできません。日本の経済は世界との貿易で支えられています。日本はその強みを活かしつつ、世界の中でルールを守り競争していかなければなりません。滋賀大学は「湖国から世界へ」というキャッチフレーズを使っていますが、皆さんがこの滋賀大学を巣立ち、世界を相手に活躍していただくことを期待しています。

経済学部及び研究科の卒業生、修了生の皆さん。日本は長い間生産性が向上せず、失われた三十年と言われていいます。皆さんには日本の経済を力強く再生する役割が期待されています。日本がまだ途上国で、追いつけ追い越せの時代だった頃は、日本人は海外から学び改善する点で大変優れた能力を発揮しました。しかし世界の最先端に追いついたあとの創造性という面では、日本はまだまだであると思います。日本の優れた伝統を武器に、皆さんには日本に新たな発展をもたらしていただきたいと願っています。

データサイエンス学部及び研究科の卒業生、修了生の皆さん。Society5.0の時代に入ったこの社会を牽引するのは他ならぬデータサイエンスです。滋賀大学データサイエンス学部で皆さんが受けた教育は、日本をリードする先端的なものであったと思います。自信を持って今後の仕事に取り組んでください。企業からの派遣で修士課程を修了された皆さんは、ご自身の企業に戻って、現場でデータサイエンスを駆使していただけることでしょう。最後に生涯教育の重要性についてお話ししたいと思います。社会は今後も急激な変化を遂げると思います。現在は寿命も延び、人生百年時代と言われています。滋賀大学で皆さんが学んだ知識や学力は、皆さんの基礎となるものですが、社会の変化とともに常に学びなおす姿勢を持つ必要があると思います。AI技術の急速な進歩もあり、最近ではリスクリングという言葉で、社会人の学びなおしの重要性が強調されています。滋賀大学では、社会人のリスクリングの機会も提供していきます。ぜひ、時々には滋賀大学に戻り、生涯学びなおす機会を作っていただきたいと思っています。

新しい時代の最前線に立つ皆さん、本日は本当におめでとうございます。滋賀大学を卒業した諸先輩は、社会のあらゆる場面で活躍しています。今日卒業する皆さんの活躍の場は大きく広がっています。あらためて皆さんの新しい門出を祝福いたします。

令和六年三月二十五日

国立大学法人滋賀大学長 竹村 彰通